

横查情報月報



横浜市衛生研究所

平成26年10月号 目次

【トピックス】

平成26年度 医動物・種類同定検査のまとめ(7～9月)	1
食品中の動物用医薬品検査結果	3
アレルギー物質を含む食品の検査結果	5

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査委員会報告 平成26年9月	7
------------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報	11
---------------------	----

平成26年度 医動物・種類同定検査のまとめ(7~9月)

医動物担当では、人の健康を害し、人に不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、市民、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かるため、効果的な対策を立てることにつながります。平成26年7月から9月の種類同定検査件数は、9件でした。内訳は昆虫類5件(カメムシ目1件、チョウ目1件、ハチ目3件)、その他の節足動物3件(クモ目2件、ダニ目1件)、その他1件でした。

主な検査結果の詳細は以下のとおりです。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
一戸建て3階の軒下に多数の虫がみられた	 幼虫、黒色、約8mm	ヨコヅナサシガメ (カメムシ目)	神社や公園などに多く見られる。サクラ、エノキ、ケヤキ、クワ、ヤナギなどの、樹洞や大木の幹の窪みにすむことが多い。多くの昆虫やクモなどを捕食する。
家屋の外壁、雨どいに大量の毛虫が付着している	 幼虫、黒褐色、約8mm	ヤネホソバ (チョウ目)	背面の瘤起には沢山の毒棘がある。刺されると痛く、発疹ができる。関東地方では年3回の発生で、蛹で越冬する。幼虫は屋根瓦や板塀などに生じた苔類に発生する。
校庭の砂場に多数の虫がみられる	 成虫、黒褐色、黄色、約23mm	ハナダカバチ (ハチ目)	砂地に穴を掘って営巣する。幼虫の餌はアブ類、ニクバエ類、キンバエ類、ハナアブ類などのハエ目の成虫である。餌は随時補給する。
校庭の砂場に多数の虫がみられる	 成虫、黒褐色、約12mm	ヤマトスナハキバチ (ハチ目)	成虫は砂地に営巣する。幼虫はカメムシ目のヨコバイ類*やキジラミ類*を食糧とする。 *ヨコバイ類、キジラミ類 セミを微小にしたような姿をしている。植物の液を吸う。  ヨコバイ類の一種

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
庭にボール状の巣があり、周囲をハチが飛んでいた		スズバチ (ハチ目)	巣は木の枝、壁、墓石などに泥で作る。巣の外観は土の塊のように見え、中に幼虫室が複数ある。
サイクリングロードのススキの葉にクモが巣をつくっている		コマチグモ属の一種 (クモ目)	ススキ、ヨシ、カヤなどの葉を曲げて住居をつくり、その中に産卵する。咬まれた際の痛みは激しいが、致命的ではない。
公園でクモを捕獲した		ジグモ (クモ目)	生垣、塀、家の土台、樹木の根元などに、地中から地上にかけて長い管状住居(10 cm程度)をつくる。地上部に昆虫類などの獲物が触れると、住居ごしに咬みつき中に引きこむ。
右上腹部にマダニを発見した		ヤマトマダニ (ダニ目)	雌雄ともに多くの大型・中型哺乳類に寄生する。吸血すると雄は体重が数倍、雌では数百倍に達する。ヒト寄生例は日本のマダニ類の中で最も多い。
床の上に糞のような黒い塊が落ちている。		炭水化物	昆虫類及びげっ歯類の糞ではない。加熱により炭水化物を焦がしたような匂いを発した。

成虫、黒色、約28mm及び巣

成虫、黄褐色、約12mm

成虫、黒褐色、約15mm

成虫、茶褐色、約2.5mm

黒褐色、約1.5～3.0mm

【 検査研究課 医動物担当 】

食品中の動物用医薬品検査結果

当所では、食品中の動物用医薬品検査を行っています。今回は、平成26年4月から9月までに食品専門監視班が収去した畜産食品および収去または購入した魚介類の検査結果を報告します。

(1) 畜産食品

4月に市内を流通している畜産食品20件(牛の筋肉5件、牛の脂肪5件、豚の筋肉5件および豚の脂肪5件)、6月に畜産食品10件(鶏の筋肉)について、検査を行いました。

検査の結果、表に示すとおりすべての項目で不検出でした。

表1 動物用医薬品の検査項目、検査結果および検出限界(畜産食品)

検査項目	検査結果					検出限界
	牛の筋肉 (5件)	牛の脂肪 (5件)	豚の筋肉 (5件)	豚の脂肪 (5件)	鶏の筋肉 (10件)	
【合成抗菌剤】						
エンロフロキサシン(シプロフロキサシンを含む)	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
オキシリニック酸	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
オフロキサシン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
オルビフロキサシン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
オルメトプリム	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
クロピドール	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
サラフロキサシン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
ジフロキサシン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
スルファキノキサリン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
スルファジアジン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
スルファジミジン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
スルファジメトキシシン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
スルファドキシシン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
スルファペリジン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
スルファメキサゾール	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
スルファメキシピリダジン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
スルファメラジン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
スルファモノメトキシシン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
ダノフロキサシン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
チアンフェニコール	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
トリメプリム	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
ナリジクス酸	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
ノルフロキサシン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
ピロミド酸	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
フルメキン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
フロルフェニコール	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
マルボフロキサシン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
【内寄生虫用剤】						
フルベンダゾール	-	-	-	-	N.D.	0.002
イベルメクチン	-	N.D.	-	N.D.	-	0.005
エプリノメクチン	-	N.D.	-	N.D.	-	0.005
モキシデクチン	-	N.D.	-	N.D.	-	0.005

単位: ppm N.D.: 不検出

(2)魚介類

5月にインターネットを通じて購入した、魚介類8件(すずき目魚類(シマアジ2件、マダイ3件)およびその他の魚類(ヒラメ3件))について検査を行いました。

また、7月に市内を流通している魚介類10件、(うなぎ目魚類(ウナギ3件)、さけ目魚類(ギンザケ1件)、すずき目魚類(ブリ1件)、甲殻類(エビ3件)、魚介類加工品(ウナギ蒲焼1件)および冷凍食品(ウナギ蒲焼1件))について検査を行いました。

検査の結果、表に示すとおりすべての項目で不検出でした。

表2 動物用医薬品の検査項目、検査結果および検出限界(魚介類)

検査項目	検査結果							検出限界
	うなぎ目 (3件)	さけ目 (1件)	すずき目 (6件)	その他 魚類 (3件)	甲殻類 (3件)	冷凍 食品 (1件)	加工品 (1件)	
【合成抗菌剤】								
マラカイトグリーン	N.D.	-	-	-	-	N.D.	N.D.	0.002
ロイコマラカイトグリーン	N.D.	-	-	-	-	N.D.	N.D.	0.002
ニトロフラントイン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.001
フラゾリドン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.001
フラルタドン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.001
エンロフロキサシン (シプロフロキサシンを含む)	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オキシリニック酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オルビフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オルメトプリム	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
クロピドール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
サラフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ジフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファキノキサリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジアジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジミジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジメトキシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファドキシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファピリジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメトキサゾール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメキシピリダジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメラジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファモノメトキシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ダノフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
チアンフェニコール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
トリメプリム	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ナリジクス酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ノルフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ピロミド酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
フルメキン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
フロルフエニコール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
マルボフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
【抗生物質】								
オキシテトラサイクリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.02
クロルテトラサイクリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.03
テトラサイクリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.02
クロラムフェニコール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.0005

単位:ppm N.D.:不検出

【 検査研究課 微量汚染物担当 】

アレルギー物質を含む食品の検査結果

アレルギー物質を含む一部の食品には表示が義務付けられており、現在、特定原材料として卵、乳、小麦、そば、落花生、えび、かきの7品目が指定されています。

平成26年5月及び8月に健康福祉局食品専門監視班と瀬谷区福祉保健センターが市内のレストラン、社会福祉施設、食品製造施設にて収去したアレルギー対応食などについて、卵、小麦、乳、そばの検査を行いました。これらの検査結果を報告します。

1. 卵の検査

市内の低アレルゲンメニューを提供しているレストランや、市内の社会福祉施設などから収去した原材料に卵を使用していない食品について、卵の検査を16検体行いました。

ELISA法によるスクリーニング試験の結果、すべて陰性(10ppm未満)でした(表1)。

表1 卵の検査結果

食品	スクリーニング試験		確認試験	
	検体数	陽性数	検体数	陽性数
弁当・そうざい類	16	0	0	0
合計	16	0	0	0

2. 小麦の検査

市内の低アレルゲンメニューを提供しているレストランなどから収去した原材料に小麦を使用していない食品について、小麦の検査を8検体行いました。

ELISA法によるスクリーニング試験の結果、すべて陰性(10ppm未満)でした(表2)。

表2 小麦の検査結果

食品	スクリーニング試験		確認試験	
	検体数	陽性数	検体数	陽性数
弁当・そうざい類	5	0	0	0
パン類	3	0	0	0
合計	8	0	0	0

3. 乳の検査

市内の社会福祉施設から収去した原材料に乳を使用していない食品について、乳の検査を8検体行いました。

ELISA法によるスクリーニング試験の結果、すべて陰性(10ppm未満)でした(表3)。

表3 乳の検査結果

食品	スクリーニング試験		確認試験	
	検体数	陽性数	検体数	陽性数
弁当・そうざい類	8	0	0	0
合計	8	0	0	0

4. そばの検査

市内の食品製造施設から収去した麺類(うどん6検体、中華麺1検体)や、その原材料(小麦粉1検体)について、そばの検査を8検体行いました。

ELISA法によるスクリーニング試験の結果、すべて陰性(10ppm未満)でした(表4)。

表4 そばの検査結果

食品	スクリーニング試験		確認試験	
	検体数	陽性数	検体数	陽性数
麺類(うどん、中華麺)	7	0	0	0
小麦粉	1	0	0	0
合計	8	0	0	0

※ ELISA法によるスクリーニング試験は、抗原抗体反応を利用して食品中に含まれる特定のタンパク質(アレルゲン)を検出する方法ですが、食品の加工度合いや使用原材料によっては、偽陽性となる場合があります。そのため、スクリーニング試験で陽性となった場合は確認試験を行っています。確認試験にはウェスタンブロット法とPCR法の2種類があります。卵、乳については、電気泳動によりタンパク質を分子量で分離して抗原抗体反応を行うウェスタンブロット法を、また、小麦、そば、落花生、えび、かにについては、特異的なDNA領域を増幅して検出するPCR法を用いて確認しています。

【 検査研究課 食品添加物担当 】

感染症発生動向調査委員会報告 9月

《今月のトピックス》

- デング熱の国内感染例が報告されています。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が多い状況が継続しています。

全数把握疾患 9月期に報告された全数把握疾患

腸管出血性大腸菌感染症	10件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	3件
デング熱	6件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
レジオネラ症	5件	侵襲性肺炎球菌感染症	3件
アメーバ赤痢	5件	梅毒	2件
急性脳炎	3件	風しん	1件

＜腸管出血性大腸菌感染症＞計10件(O157VT2 6件、O157VT1 1件、O26VT1 2件、O145VT2 1件)の報告がありました。肉は十分に加熱(中心部まで75℃で1分間以上加熱)し、食品はよく洗い新鮮な材料を使うなど予防対策が重要です。家庭内での2次感染予防では、手洗いをしっかりと行い、下痢症状がある人は専用のタオルを使用し、トイレは常に清潔に掃除して、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにすることが大切です。

＜デング熱＞6件(海外感染例1件、国内感染例5件)の報告がありました。1999年から2014年7月まで感染症発生動向調査で報告された症例はすべて海外での感染例でしたが、2014年8月に都内公園で感染したと推定される症例が報告されて以来、9月22日までに計142名の国内発生例が報告されています。横浜市内の医療機関からも、9月22日までの時点で7件の国内発生例の届出(うち1件は市外在住)があり、すべての症例で代々木公園への訪問歴がありました。[横浜市内の蚊の調査](#)では、デング熱のウイルスは認められていません。デング熱は通常3～7日の潜伏期の後、急激な発熱で発症し、発疹、頭痛、骨関節痛、吐気・嘔吐などの症状が出現します。デング熱の詳細な所見、診断方法や治療法については「[デング熱診療ガイドライン\(第1版\)について\(厚生労働省\)](#)」を参照してください。

＜レジオネラ症＞肺炎型4件、ポンティアック型1件の報告がありました。現在感染経路等調査中です。

＜アメーバ赤痢＞腸管アメーバ症4件、腸管及び腸管外アメーバ症1件の報告がありました。報告のうち1件は国内での経口感染が推定されていますが、他はすべて性的接触による感染が推定されています。

＜急性脳炎＞3件の報告(2歳7ヶ月児、4ヶ月児、1ヶ月児)がありました。病原体検索中です。この3件の疫学的なつながりは確認されていません。2014年は、9月22日までに既に10件の報告があります。2013年5件、2012年8件、2011年7件と、過去3年間と比べてやや報告が多くなっており注意が必要です。

＜後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)＞無症状病原体保有者3件の報告がありました。そのうち2件は国内、残る1件は海外(タイ)での同性間性的接触による感染でした。

＜侵襲性インフルエンザ菌感染症＞2件の報告(60歳代、90歳代)がありました。

＜侵襲性肺炎球菌感染症＞3件の報告(80歳代、70歳代、20歳代)があり、80歳代と70歳代の2件は予防接種歴が確認できませんでした。20歳代の1件は生体肝移植者で、予防接種歴が1回ありました。

＜梅毒＞早期顕症梅毒Ⅱ期(丘疹性梅毒疹あり。国内での異性間性的接触による感染)が1件、晩期顕症梅毒(神経症状あり。感染経路感染地域等不明)の報告が1件ありました。

＜風しん＞学童の臨床診断例(予防接種歴1回あり)が1件ありました。

定点把握疾患 平成26年8月25日から平成26年9月21日まで
 (平成26年第35週から平成26年第38週まで。ただし、性感染症については平成26年8月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

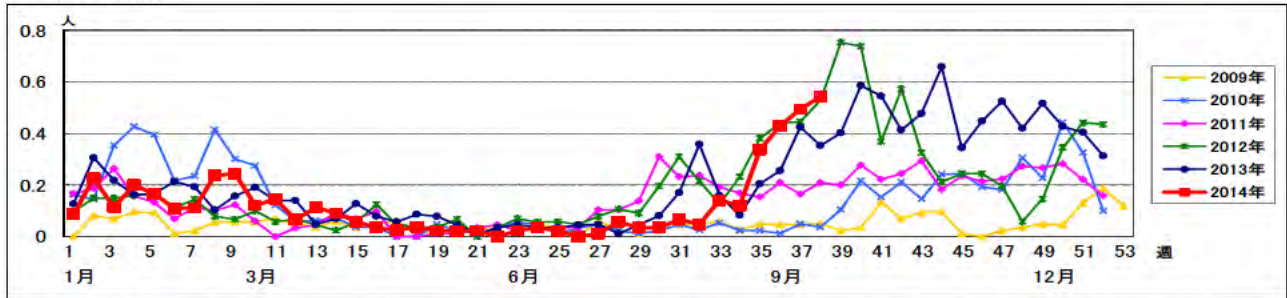
平成26年 週一月日対応表

第35週	8月25日～8月31日
第36週	9月1日～9月7日
第37週	9月8日～9月14日
第38週	9月15日～9月21日

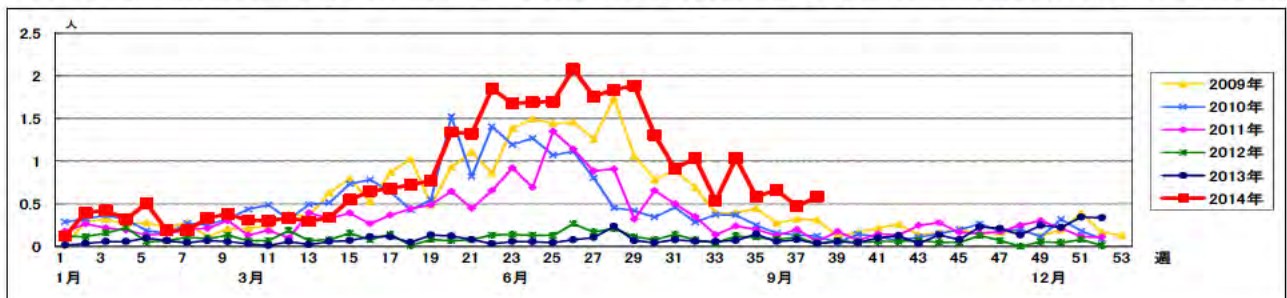
1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:4か所の計202か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

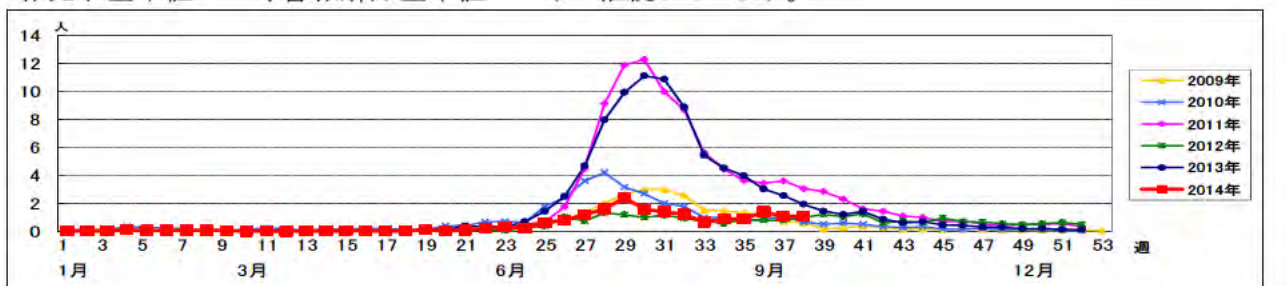
<RSウイルス感染症>第33週頃から報告が増加し、第38週は市全体で定点あたり0.54となっています。例年これからの時期は報告数が多い状態が続くので注意が必要です。区別では緑区2.50で報告が多くなっています。



<伝染性紅斑>第26週の市全体で定点あたり2.08をピークに徐々に報告数は減少し、第38週0.59となっています。港南区2.33で警報レベル(警報発令基準値:2.00、警報解除基準値:1.00)が継続しています。



<手足口病>第38週は市全体で定点あたり1.07となっています。区別では、港南区3.00で警報レベル(警報発令基準値:5.00、警報解除基準値:2.00)が継続しています。



<性感染症>8月は、性器クラミジア感染症は男性が12件、女性が17件でした。性器ヘルペス感染症は男性が4件、女性が3件です。尖圭コンジローマは男性7件、女性が1件でした。淋菌感染症は男性が20件、女性が0件でした。

<基幹定点週報>マイコプラズマ肺炎は第35週2.25、第36週0.50、第37週0.00、第38週0.00と、第36週以降報告はやや落ち着いてきました。無菌性髄膜炎は第38週に1件報告がありました。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)、クラミジア肺炎、細菌性髄膜炎の報告はありませんでした。

<基幹定点月報>8月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症4件の報告がありました。薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

<ウイルス検査>

9月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点42件、基幹定点3件で、眼科定点5件、定点外医療機関からは5件でした。

10月10日現在、ウイルス分離2株と各種ウイルス遺伝子39件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(9月)

主な臨床症状 または診断名 分離・検出ウイルス	上気道炎	下気道炎	インフルエンザ (疑い含む)	RS感染症	咽頭結膜熱 (アデノ感染症含む)	胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	無菌性髄膜炎	流行性角結膜炎	発熱のみ	口内炎	りんご病	その他
アデノ NT	2	1		1	1									
インフルエンザ AH1pdm09		1												
パラインフルエンザ 1型		2			1									
パラインフルエンザ 2型	1													
パラインフルエンザ 3型	1	1												
パラインフルエンザ 4型		1												
RS		3		6							1			
ライノ	3	2			1									
コクサッキー A 2型								1						
コクサッキー A 4型						1								
コクサッキー A 6型								1						
コクサッキー A 16型							2							
エンテロウイルス 71型							1							
ヒトパレコウイルス 1型								1						
ヒトパレコウイルス						2								
エコー	2													
ノロ	1													
合計	10	11		7	2	3	3	2			1			

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数、NT:未同定

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

9月の感染性胃腸炎関係の受付は小児科定点から1件、基幹定点から2件、その他が15件で、腸管出血性大腸菌(O157:H7、O157:H-、O111:H-、O146:H21、O26:H11、O26:H-)、*Campylobacter jejuni*が検出されました。腸管出血性大腸菌(O111:H-)はインドへの渡航者から検出されました。

その他の感染症は小児科から1件、基幹定点から4件、その他が12件でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(9月)

検査年月		9月			2014年1月～9月		
定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件数		1	2	15	4	73	102
感染性胃腸炎							
菌種名							
赤痢菌						1	1
腸管病原性大腸菌						1	
腸管出血性大腸菌				14		1	75
腸管毒素原性大腸菌						3	
腸管凝集性大腸菌						1	
サルモネラ						25	7
カンピロバクター				1	1		3
NAGビブリオ							1
不検出		1	2	0	3	41	15
その他の感染症							
検査年月		9月			2014年1月～9月		
定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件数		1	4	12	31	31	153
菌種名							
A群溶血性レンサ球菌		T1			2		2
		T4	1		7		
		T6			6		
		T9					1
		T11			1		
		T12			6		
		T B3264			2		
		型別不能			3		1
B群溶血性レンサ球菌			4	1		4	18
D群溶血性レンサ球菌							2
G群溶血性レンサ球菌							3
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌				1		15	2
<i>Legionella pneumophila</i>				1			7
インフルエンザ菌				1			7
肺炎球菌				4	1		67
<i>Neisseria meningitidis</i>							1
結核菌							4
百日咳						1	
その他				3		10	6
不検出		0	0	1	3	1	32

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成26年9月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数 (平成26年9月)

平成26年9月の総アクセス数は、137,852件でした。主な内訳は、感染症情報センター69.3%、食品衛生4.7%、保健情報5.7%、検査情報月報5.8%、生活環境衛生3.1%、薬事0.7%でした。

(2) アクセス順位 (平成26年9月)

9月のアクセス順位(表1)

表1 平成26年9月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	デング熱・デング出血熱について	7,746
2	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	3,998
3	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	3,691
4	エンテロウイルスについて	3,505
5	衛生研究所トップページ	3,317
6	臨時情報	3,187
7	サイトメガロウイルス感染症について	2,808
8	横浜市感染症臨時情報「デング熱に注意」	2,802
9	EBウイルスと伝染性単核症について	2,745
10	ぎょう虫(蟯虫)症について	2,206

データ提供: 市民局広報課

は、第1位が「デング熱・デング出血熱について」、第2位が「B群レンサ球菌(GBS)感染症について」、第3位が「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」でした。

9月の総アクセス数は、前月に比べ11%ほど増加しました。今月の1位は、「デング熱・デング出血熱について」が入りました。8位の臨

時情報「デング熱に注意」と共に、関心の高さがうかがえます。現在、デング熱は報道されている通り、国内での感染が増加しています。デング熱は蚊の媒介により感染が広がるため、蚊に刺されないように注意することが必要です。2位のB群レンサ球菌(GBS)感染症は、[健康な妊娠・出産のために注意したい感染症](#)の一つです。3位のクロストリジウム-ディフィシル感染症は、老人や免疫機能が低下している人たちに多く発生します。

「デング熱・デング出血熱について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/dengue1.html>

「B群レンサ球菌(GBS)感染症について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/gbs1.html>

「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/clostridium1.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ（平成26年9月）

平成26年9月の問い合わせは、4件でした(表2)。

表2 平成26年9月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
デング熱発生について	1	健康安全課健康危機管理担当
やぶ蚊退治の件	1	西区生活衛生課
デング熱の件	1	青葉区生活衛生課
薬事法違反の可能性について	1	医療安全課

2 追加・更新記事（平成26年9月）

平成26年9月に追加・更新した主な記事は、9件でした(表3)。

表3 平成26年9月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
9月 1日	デング熱に注意	掲載
9月 1日	感染症に気をつけよう(9月号)	掲載
9月 2日	平成26年 熱中症情報	掲載
9月 2日	リベリアのこどもの定期予防接種について	掲載
9月11日	ギニアのこどもの定期予防接種について	掲載
9月11日	平成26年 熱中症情報	掲載
9月17日	平成26年 熱中症情報	掲載
9月19日	ニジェールのこどもの定期予防接種について	掲載
9月25日	マダガスカルのこどもの定期予防接種について	掲載

【 感染症・疫学情報課 】